

令和2年度第1回多摩市在宅医療・介護連携推進協議会に関する意見

実施期間：令和2年6月29日（月）～令和2年7月10日（金）
 対象者：多摩市在宅医療・介護連携推進協議会 24名

①令和元年度多摩市高齢者在宅療養支援窓口の相談実績および令和2年度活動計画について

承認	24人	不承認	0人
----	-----	-----	----

No	意見等(概要)	回答等
1	市民からの相談件数が増加、定着しつつあり良いことである。認知度が上がるとともに、相談の内容ごとに関係機関等につなげることができればなお良い。	委託先である多摩市医師会および窓口担当者と連携をとり、更に認知度が上がるように啓発に努めます。今後も関係機関と連絡を密にし、対象者の支援に適切につながったかを確認していきます。
2	在宅療養支援の要として、医療・介護連携の重要性や必要についてアウトリーチ的手法等を用い、啓発を行ってほしい。	昨年度は在宅療養に関するリーフレットを作成し配布しておりますが、更なる普及啓発を目指し、感染症慢延期の現状を踏まえて、どのような手法を用いればよいかを検討していきます。
3	医療との連携が取り易くなってきている事から直接医療機関に相談することが増えている。 専門職に対する周知としては、連携困難な事例等をあげることで高齢者在宅療養支援窓口の必要性を実感できるのではないかと。	窓口では、年2回窓口のお便りを発行しています。お便りでは具体的な事例も取り上げ窓口の役割を紹介していますので、内容の充実を図り、関係機関に周知していきたいと思います。
4	支援者に対する認知度が上がったと思うが、ケアマネジャー、診療所医師からの相談が思ったより少ない。 認知度を測る機会があるとよいのではないかと。	ケアマネ部会や多摩市医師会と連携し、更なる窓口の周知を行うとともに、認知度の確認についても検討してまいります。
5	専門職のスキルアップとなる役割も持てるのではないかと。	窓口担当者は、協議会および研修部会にも参加し、医療・介護関係者のニーズの把握に努めております。関係者のためにどのような支援ができるか引き続き検討していきます。
6	多摩市高齢者在宅療養支援窓口の活動における分析で、介護未申請の人、未利用の人が適切に医療介護につながっていなかった理由が分析できていれば知りたい。	窓口担当者と個々の状況を整理し、振り返りを行うなかで検討してまいります。

②令和2年度多摩市在宅医療・介護連携推進事業年間計画について

承認	24人	不承認	0人
----	-----	-----	----

No	意見等(概要)	回答等
1	退院後の受け皿の容量を病院側に認識してもらうことができるか。 情報の羅列ではなく、知りたい情報を知りたい分だけに集約したほうが、お互いに面倒に思わないと思う。	昨年度のテーマ「入退院時の連携」において、医療と在宅機関の意見の相違を埋めるため、意見交換会を行う方向性が決まりました。しかし、感染症拡大防止の観点から、当面の間開催は難しいため、まずは病院窓口一覧表を作成し、連携が円滑に行えるように努めたいと思います。
2	医療・介護従事者の共通言語として、「地域連携パス」の作成が望まれるのではないだろうか。	貴重な意見として承り、今後の取組みに活かしてまいります。
3	地域包括ケアシステムについて、医療・介護の連携が機能していない事例もあることを現場として実感している。地域包括ケアシステムの深化に向け、上手く連携できなかった事例を集約、課題を抽出し解決へ結びつけていく作業も必要ではないかと。	多摩市では、個別の地域ケア会議の積み重ねにより、課題抽出、整理を行っております。地域包括システムの一つの手法である地域ケア会議を活用し、課題解決に向けて行っている取り組みを見える化できるよう努めたいと思います。
【新型コロナ感染症関係】		
4	感染症拡大期におけるステイホーム時の連携、利用者の状態の変化の振り返りが必要ではないかと。	今年度の多摩市在宅医療・介護連携推進協議会の中で、感染症拡大期における医療・介護連携について検討してまいります。

③第7期多摩市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の進捗報告

No	意見等（概要）	回答等
【目標について】		
1	<p>基本目標（2）地域包括ケアシステムの深化・推進 指標Ⅱ（5）在宅医療・介護連携</p> <p>多摩市高齢者在宅療養支援窓口に苦情受付機能を持たせることで、多職種連携に関する課題等を抽出、集約することが可能となるのではないかと。また、医療に関して不足する地域資源情報の集約機能も付加できるとなお良いと思う。</p>	<p>窓口と相談内容の分析等を行い、課題の整理を行っていきます。現在窓口では、医療および在宅機関の情報の集約を行っており、今後関係機関にどのように周知していくかを検討します。</p>
2	<p>概ね高評価であるが、より多くの支援者にとって十分な連携であるか、取り残されている人がいないかの検証も必要ではないか。</p>	<p>令和元年度実施した医療・介護関係機関へのアンケート調査を今後も継続的に実施し、また適宜関係機関にヒアリングを行い、実態を把握していきます。</p>
3	<p>評価指標の評価が「実施する」ことになっていて、その実施が「どのような効果をもたらすか」ということになっていない。 実質上の効果を測定というものはどのように評価されるのか。あればそれを明示し、具体化したほうがわかりやすいと思う。</p>	<p>国が示す評価指標項目を実施することで、在宅医療・介護連携を推進することにつながると考えますが、具体的な効果に関しては、本協議会で検討していくものだと考えております。</p>
【新型コロナウイルス感染症関係】		
4	<p>コロナ禍においていかに「顔の見える関係」を作るかが課題かと思う。</p>	<p>平成28年度から医療・介護関係者の研修を実施しており、「顔の見える関係」づくりが浸透してきています。現在の状況をふまえ、今できることを検討していきます。</p>
5	<p>新型コロナウイルス感染症流行による自粛生活の影響により、訪問看護利用者の認知症やフレイルの進行を実感する。 再び自粛生活も考えられるため、見守りやフレイル予防対策の強化が今後必要だと考える。</p>	<p>今年度の緊急事態宣言後、地域包括支援センターと民生委員で、75歳以上の高齢者世帯および高齢者単身世帯の安否確認等の取り組みを行いました。今後も見守り活動やフレイル予防のための情報発信等を行っていきます。</p>
【その他】		
6	<p>多摩市には、住宅事情や家族の介護状況の理由で、やむおえず在宅医療となっている高齢者が一定数いる。 介護予防の観点からも在宅医療とならないような支援（例えば、外来通院支援）も今後多摩市にとって必要になると考える。財政面でも必要になると考える</p>	<p>貴重な意見として承り、今後の取組みに活かしてまいります。</p>
7	<p>「在宅医療・介護連携による在宅療養の推進」について、障害分野と高齢との連携の中で、「もう少しこうだったら良い」といったことが関係者から話が聞けると今後取り組むべきことが見え、令和元年度に行った関係機関に対するアンケート調査のように実態が確認できることは良いことであると思う。</p>	<p>医療・介護関係機関へのアンケート調査は、今後も継続的に実施し、実態を把握していく予定です。</p>
8	<p>在宅医療連携として、今後国が進める地域共生型ケア（2020/6/14社会福祉法改正）をふまえた施策を考慮していくべきである</p>	<p>貴重な意見として承り、国都の動向を注視しつつ、市全体の方向性も踏まえながら施策に反映していきたいと思っております。</p>